一宮市博物館だより

No.34 2004.3

一宮市指定文化財 紙本著色兼松正吉画像（若栗神社八幡宮所蔵）

横折れや亀裂、絵具層の剥離などの損傷がみられましたので、今年度修理を行いました。写真は修理後。

春季企画展「文化財フォーエバー～文化財の修理～」より

平成十六年度春季企画展

『文化財フォーエバー ～文化財の修理～』

平成十六年四月二十四日(土)から
五月二十三日(日)まで

休館日 四月二十六日(月)・三十日(金)
五月六日(木)・十日(月)・十七日(月)

文化財は、世代を越えて、人から人へと護り伝えられてきました。所蔵者をはじめ、文化財を支える人々の想いは、日々の心掛けや取り扱いとなり、また受け継がれた技術による修理があったからこそ、私たちの時代まで遺されたといえましょう。

本展では、伝統に改良を重ねながら受け継がれる、現在の絵画修理の世界を中心に、工芸や彫刻等の修理例も交えながら、その技術について概観します。

なお今回紹介する修理事例は、すべて国や愛知県、または一宮市が助成した過去の補助事業によるものです。博物館では、今後とも研究機関として、また文化財行政を担う機関として、地域の皆様方と修理技術者の方々の間をつなぎながら、文化財の保護に努めて参りたいと思います。

展示説明会

五月一日(土)・十五日(土)　午後二時から

説明：当館学芸員

Ⅰ. 絵画の修理と装潢の世界／
紙本著色兼松正吉画像(市文)若栗神社八幡宮蔵
1 修理前の本紙(斜光による撮影)　2～4 修理の様子
(2 剥落止め　3 補紙の補填　4 裏打ち紙の除去)

Ⅱ. 仏像の修理／
木造阿弥陀如来及び両脇侍像(県文)長隆寺蔵
5 脇侍像から発見された墨書
6 阿弥陀如来像修理前

Ⅲ. 工芸品の修理／
彫根来大香合(県文)妙興寺蔵
7 漆塗膜の剥落　8 修理後
陶製手水鉢(市文)妙興寺蔵　9 修理中(解体)

2

3

4

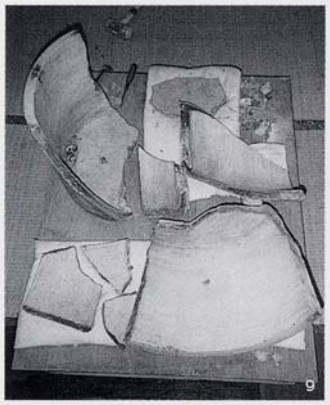
1

5

6

7

8


9

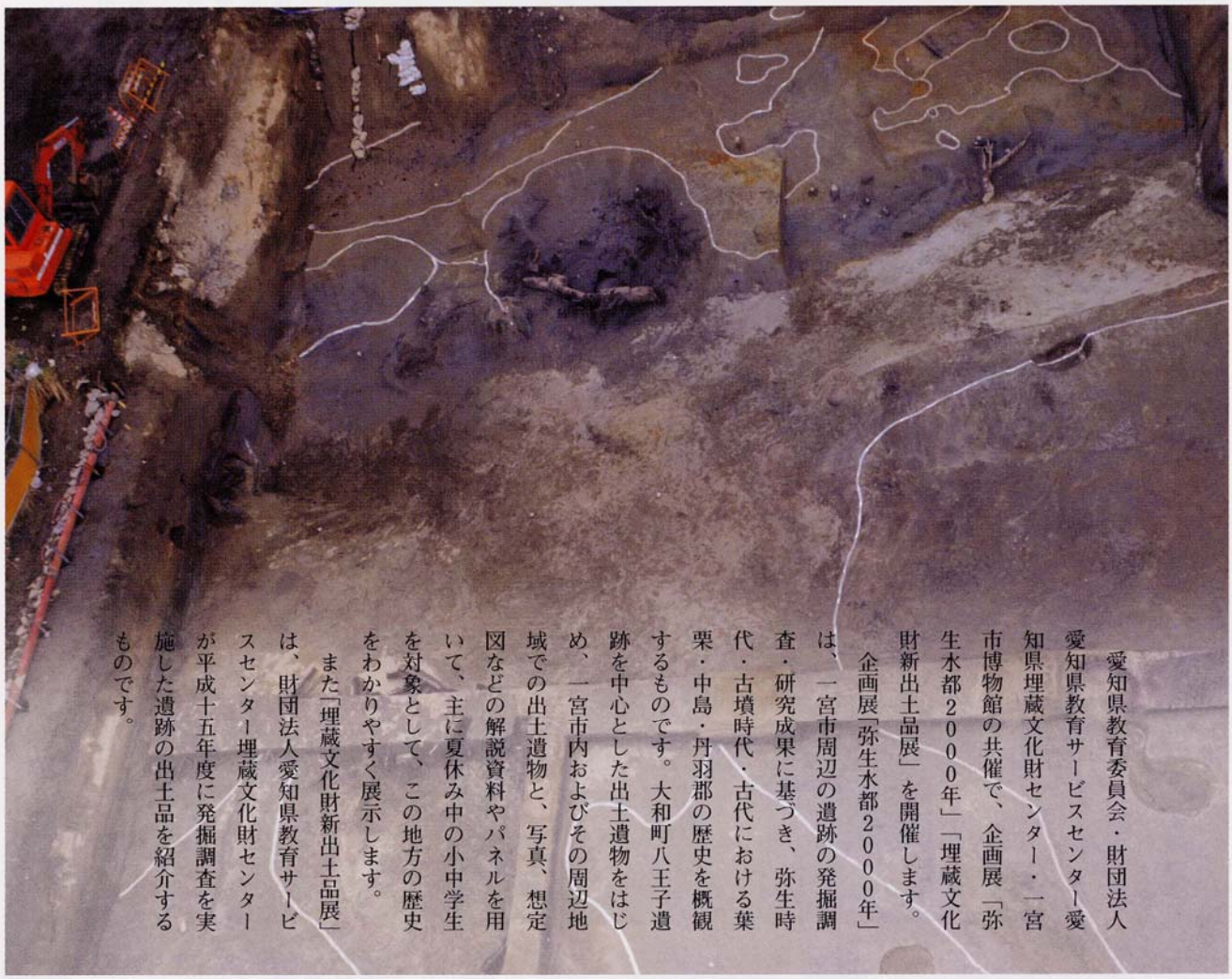
写真提供：
1～4 (有)坂田墨珠堂
5 (財)美術院
7, 8 北村昭斎氏

企画展「弥生水都2000年」・「埋蔵文化財新出土品展」

井泉周辺
出土土器群

平成16年　7月17日(土) から
8月29日(日) まで

(休館日：7月20日(火)、26日(月)、8月2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月))



愛知県教育委員会・財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター・一宮市博物館の共催で、企画展「弥生水都２０００年」「埋蔵文化財新出土品展」を開催します。

企画展「弥生水都２０００年」は、一宮市周辺の遺跡の発掘調査・研究成果に基づき、弥生時代・古墳時代・古代における葉栗・中島・丹羽郡の歴史を概観するものです。大和町八王子遺跡を中心とした出土遺物をはじめ、一宮市内およびその周辺地域での出土遺物と、写真、想定図などの解説資料やパネルを用いて、主に夏休み中の小中学生を対象として、この地方の歴史をわかりやすく展示します。

また「埋蔵文化財新出土品展」は、財団法人愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財センターが平成十五年度に発掘調査を実施した遺跡の出土品を紹介するものです。

ギャラリートーク

と　き　7月17日、31日、8月7日、21日、28日の土曜日　午後2時から
講　師　一宮市内の遺跡発掘調査に携わった愛知県埋蔵文化財センター調査課職員

シンポジウム(愛知県埋蔵文化財センター主催)

と　き　8月15日(日)　午後1時30分から
ところ　一宮勤労福祉会館
テーマ　「弥生水都の幻影を求めて
　　― 一宮の源流を語る ―」(仮題)

八王子遺跡井泉

博物館事業報告

平成15年
8月21日

一宮市文化財「サツキ」を指定解除

本樹は昭和三十六年に一宮市文化財（植物）に指定されました。一樹が四方八方に枝を張りそれが地に伏して発根し、そこから更に枝が出てこれを繰り返し、所有者宅の庭一面に広がっていました。最盛期には東西約十二m、南北約九m、高さは約二mありました。毎年六月上旬に開花し、朱赤色の花が満開に咲き誇りました。

しかし近年、樹勢がひどく弱り古い枝が枯死したため、巨大な塊状の樹は小さな数株に分離して残る状態となっています。

指定当時の頃か

現況

完全枯死はまだ先のことと思われますが、もはや市内一の大株とは言い難く、庭一面に広がって繁茂していたかつての姿は失われました。この間、腐植土の黒ぼくを入れたり、施肥や除草を繰り返したものの、復旧はできませんでした。サツキ自体は珍しい植物ではありませんので、残念ながら指定解除が決まりました。

平成15年
10月10日～11月9日

秋季特別展「MOA美術館名品展 ―黄金の茶室とわび茶の世界―」

私たちの住む一宮市には現在も数多くの喫茶店があり、仕事の手をちょっと休める農家の方々や、家事の合間に友人との語らいの場を求める人々、あるいは商談に利用する人達などで賑わっています。それは、お茶所と言われた風土が背景にあるものと思われます。本展は、そんなお茶の愛好家の方々に待望久しい本格的な茶道具名品展として、MOA美術館のご協力を得て開催したものです。豊臣秀吉ゆかりの「黄金の茶室」（復元）というネームバリューもあってか、当館はじまって以来最高の人出となり、これまでで最も多かった展覧会を倍以上も上まわる二五、四一四人の観覧者がありました。美術鑑賞という面で地元の人々に大いに喜んでいただけて、かつ、初めて来館の方も多く、当館の存在を知っていただける良い機会だったのではないかと思います。

平成15年
10月30日

第三十九回 市民文化財めぐり

市民の方に私たちの貴重な先祖の遺産である文化財を紹介することにより、文化財愛護の精神を高めていただくため、昭和四十二年以来毎年「市民文化財めぐり」を開催しており、今回が三十九回目です。コースは、真清田神社～木曽川堤・ツインアーチ138～浅井古墳群～長誓寺（本堂・シダレザクラ・カイヅカイブキ）～樫の木文化資料館～妙興寺（境内地・建造物・植物）～博物館（MOA美術館名品展）。当日は快晴に恵まれ、三十三名の参加者の方々は熱心に講師の解説に聞き入っていました。

平成15年
11月19日～12月3日

企画展 岩田安郎の情感 新作・旧作展

岩田安郎さんは、平成十三年秋には、一宮スポーツ文化センターで「岩田安郎五十年展」を開き、併せて『岩田安郎・周辺のこと 1950―2001』を出版して五十年間の画業を回顧しております。

この度の「岩田安郎の情感 新作・旧作展」は、その第二弾として、最近十年間の新作三十六点と旧作二十四点の計六十点を展示したものです。

特別展示室・講座室・展示室4・ラウンジ・ギャラリーを会場とし、外光を取り入れた和やかな環境の中で作品を観覧していただきました。

平成15年
12月6日～12月21日

企画展 二〇〇三 一宮市現代作家美術秀選展

昨年に引き続いて、「二〇〇三 一宮市現代作家美術秀選展」を開催いたしました。第六十一回一宮市美術展での依頼出品者の選りすぐり作品や市長賞受賞者の作品、及び各協会推薦者の作品六十三点を展示したものです。会場は、昨年同様、特別展示室・ラウンジ・講座室・展示室4・ギャラリーを当て、外景の紅葉を取り入れた落ち着いた雰囲気の中で来館者の方々に鑑賞していただきました。

平成16年
1月10日～2月22日

企画展 くらしの道具 ～今と昔～

本展は、平成三年度より継続して実施してきた展覧会で、歴史を学び始める小学校三年生を対象に企画してきました。本年度からは主な対象を小学校四年生とし、市域周辺の民俗資料だけではなく、自然環境が異なる地域の民俗資料と比較することにより、地域による生活道具や暮らしの違いについても紹介しました。また、毎週日曜日には、石臼やマンガ、アブチ、一斗枡などの道具を使ったり、センバヤキやいもぼたなどの当地に伝わる食べ物を作るなどの体験講座を実施し、さらに山のくらしの道具の一つである囲炉裏を囲んでゴヘイモチを食べたりしました。

「いもぼたを体験！」（2／15）

展覧会見学風景

平成16年
1月21日

文化財防火訓練

昭和二十四年一月二十六日に法隆寺金堂壁画が焼失し、以来、文化財を火災・震災から守るため毎年この日を「文化財防火デー」と定められました。今年は五十回目に当たりますが、市教育委員会は消防本部とともに防火訓練・文化財管理者研修会・文化財防火パトロールを実施しました。防火訓練は市内中心部にある真清田神社境内において市消防署員・神社関係者・地元消防団員らが中心となって緊急時を想定して行われ、地元町内会・保育園児など多くの参加がありました。

防火パトロール

防火訓練

平成16年
2月28日ほか

博物館講座「はにわをつくろう」

二月二十八日・二十九日、三月十四日に、小学校高学年児童とその親を対象にして実施しました。

今回の参加者は親子九組十八名のみなさんで、それぞれ親子で相談しながら、野焼き用の粘土を使って、様々な形のはにわを製作しました。その後、博物館で二週間乾燥させたあと、隣接する妙興寺の境内で野焼き作業を実施しました。野焼きの日は、よく晴れた暖かい一日で、みんなで協力して焼き上げることができました。そして、一部は割れたり、剥離したりしましたが、みなさんの満足気な表情が印象的で、親子仲良く作品を持ち帰りました。

また、野焼きの合間に、台付甕による赤米などを炊いて試食したり、磨製石器の製作を行いましたが、昔の人の生活も体験できて面白かったとの感想が聞かれました。

はにわの製作

野焼きの準備

平成16年
2月29日～3月14日

作品展 手つむぎ・染め・織り展

繊維講座生と伝承会員による、第十五回作品発表会。平成十五年度に製作した、反物・着物・テーブルセンターなど約四十点の作品を展示しました。ご観覧の方には、機織りや糸づくりの体験をしていただきました。

綿繰りろくろ

綿打ち弓

糸車

平成16年
3月21日

民俗芸能公演

一宮市博物館講座室・妙興寺公民館にて、市指定無形文化財「島文楽」（昭和三十六年三月二十七日指定）と「宮後住吉踊」（平成十二年六月二十二日指定）の公演を行い、市内に伝承される民俗芸能を紹介しました。

島文楽　演目「伊達娘恋緋鹿子火の見櫓の段」「三番叟」、
宮後住吉踊　演目「安珍清姫日高川の段」ほか

考古学レポート

苅安賀城跡出土の蔵骨器

瀬戸四耳壺①

山茶椀②

山茶椀③

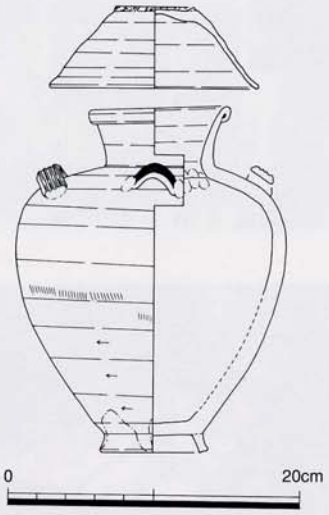
今回紹介する資料は、大和町苅安賀在住の土田昌宏氏から寄贈を受けた資料である。同氏が畑掘削中に発見されたもので、現地表下約八〇㎝程で河原石に当たり、その礫石を除去したところこの蔵骨器が出土したとのことである。

出土地点は、現在苅安賀城跡石標が建っている地点の南に隣接する畑で、氏の話によれば、この畑の西半部は土が非常に軟らかく、現地表下約八〇㎝でこうした礫にあたるとともに、東半部では地盤が非常に固くしまっており水はけも悪いとのことである。

①四耳壺　古瀬戸。高二三・八㎝、口径九・八㎝、胴最大径一八・四㎝、底径七・三㎝、口縁端面を折り返す。胴部下半はヘラ削り調整、上半はナデ調整を施す。全面に灰釉を塗布しているが剥落が多い。耳は型耳。

②碗　東濃系（北部系）の山茶椀。高五・六㎝、口径一四・四㎝、高台径七・五㎝、底面には板状工具痕が残り、高台下面に籾殻痕が見られる。また内底面にわずかに使用による摩滅が見られる。

③碗　東濃系（北部系）の山茶椀。高五・九㎝、口径一三・八㎝、高台径七・七㎝、底面には板状工具痕、高台下面に籾殻痕が見られる。内底面に使用痕は見られない。



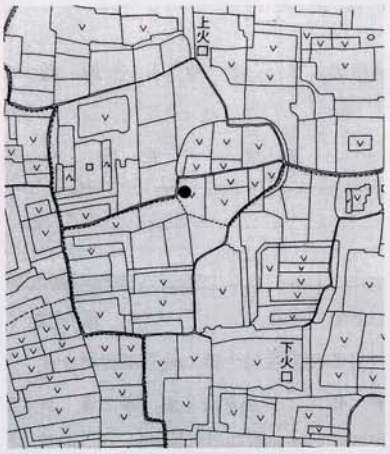
出土遺物実測図（1:4）

①の蔵骨器中に火葬人骨とともに、②の山茶椀の小片一点が遺存しており、この蔵骨器の蓋として利用されていたものと推定した。

①の四耳壺は古瀬戸前期の産と推定され、十三世紀前半代に、②の山茶椀は十三世紀後半代にそれぞれ編年されており、遅くとも十三世紀のうちにこの蔵骨器が埋納されたと考えられよう。

苅安賀城跡は、現在は削平され、苅安賀自動車学校用地となっているが、この蔵骨器が出土した地点は、城跡と考えられる高まりの西南隅にあたる。

苅安賀城は、戦国期浅井新八・田宮丸父子の居城であったと伝えられており、築城は永禄初年（一五五八）の頃を遡らないとする。今回紹介した蔵骨器は、この苅安賀城築城の時期を遡るものであり、築城以前にこの地に中世墓が営まれていたものと考えられる。その後苅安賀城築城にあたりこの中世墓の区域がどのように扱われたのかはっきりしないが、この畑の東半が固く締まっているという話から、東半は苅安賀城築城に伴う整地層と推定されよう。これに比して、西半が軟質で礫層まで簡単に掘削可能であるということは、この中世墓は、築城に際しての工事区域から除外されやがて埋没したという可能性も指摘できよう。



地積図
（1991愛知県『中世城館跡調査報告Ⅰ』より作成）

蔵骨器出土地近景

苅安賀城跡（1960年撮影）

青緑前後赤壁図（対幅）

作　者　織田杏斎
制作年　明治中～後期
材質・技法・形状　絹本着色軸装
寸　法　本紙　四二・〇×一二二・〇㎝、総丈　五八・〇×一九六・〇㎝
伝　来　箱書表「先考杏斎翁筆青緑前後赤壁図絹本双幅」、同裏「是幅先人往年所写也今被属題簽即書　大正丙寅夏日　男杏逸（印）」（杏逸は杏斎の三男。丙寅は大正十五年［一九二六］。）
平成十一年度購入

織田杏斎（一八四五～一九一二）は、名古屋の生れ。画を父共樵（？～一八六二）に学んだのち中国画の修得に励み、ついには各流派を折衷し、一般に「南北合法」（南宗・北宗画）と呼ばれる一家をなした。半田の山本梅荘に師事した一宮出身の文人画家・岩田心斎は、大正十年（一九二一）の『大日本画家名鑑』に南北合法の画家として紹介されており、杏斎の画風が当地方画壇にも影響をおよぼしていたものと思われる。また、七宝焼の絵模様の改良に協力した事でも知られ、著書に『十竹斎画譜抄』『前津茶会録』などがある。

本作品は、中国北宋の詩人・蘇軾（一〇三六～一一〇一）の詩文「赤壁賦」に題材を求め、緑青の彩色を用いて描いた青緑山水図と呼ばれるもので、技法・画題ともに本格的な力作である。ちなみに、箱書きをしている三男の織田杏逸（一八九〇～一九七〇）は、父の弟子石河有鄰に学び、京都市立絵画専門学校を卒業後に帰郷し、大正七年に石川英鳳・佐藤空鳴・和田青雨らによる愛土社結成に参加している。

（毛受英彦）

美人草に鳩

作　者　土田麦遷
制作年　大正十四年（一九二五）頃
技法・材質・形状　絹本着色軸装
寸　法　本紙　二七・〇×三九・〇㎝、総丈　一二〇・〇×五三・〇㎝
伝　来　箱書表「美人草に鳩　麦僊筆」、裏「昭和十参年九月　土田千代（印）」（土田千代は麦遷妻。昭和十参年は一九三八年。）
平成十二年度購入

土田麦遷（一八八七～一九三六）は新潟県佐渡の生まれ。京都の知積院に入るが、出奔して鈴木松年に師事、後に、竹内栖鳳に入門して「麦遷」の号を得た。それからはたちまちのうちに日本画壇で頭角を現したが、当時の多くの画家が直面した東洋の伝統と西洋の影響との葛藤という問題に彼も無縁ではなかった。京都市立絵画専門学校卒業後の大正七年（一九一八）、村上華岳・小野竹喬・榊原紫峰らと国画創作協会を結成し、西洋画と伝統画法を調和させた清新典雅な作品を発表し、近代日本画の高指標の一人となる。そして、一九二一年から一年半のヨーロッパ遊学後は益々自分の道に確信を深めて活躍し、近代日本画の偉才と大いに注目されたが、惜しくも志半ばの四十九歳でこの世を去った。

本作品は、平成十年度購入の「花と金魚図」（一宮市博物館だより二十五号参照）同様、ヒナゲシを主題にしている。大正十四（一九二五）年以降ケシの写生のため頻繁に浅井町を訪れていた頃の制作と思われる。麦遷は昭和十一年（一九三六）に没したが、本作品の箱には、その二年後の昭和十三年に妻千代により揮毫がなされている。

（毛受英彦）

平成16年度催し物のご案内

10月9日(土)から11月14日(日)

秋季特別展　「画家・山喜多二郎太」

山喜多二郎太(1897～1965)は、東京美術学校(佐分は1年後輩)で西洋画とともに日本画も学び、昭和初期、皆がパリへ旅立つ中、彼は独り中国へ遊学します。戦後もほぼ落ち着いてきた1956年（昭和31)、佐分眞の遺志を継いで一宮市の臨済宗妙興寺仏殿の天井に「蟠龍図」を描きます。僧堂の天井に油彩で描いたということが、大変ユニークな試みとして大いに注目を集めたものです。

1月8日(土)から2月20日(日)

企画展　くらしの道具 ～今と昔～

尾張地方の生活道具を、山や海に面するなど自然環境が異なる地域の民俗資料と比較することにより、地域による生活道具や暮らしの違いを紹介する、小学校4年生をはじめとした子どものための展覧会。

12月4日(土)から12月19日(日)

企画展　2004一宮市現代作家美術秀選展

一宮市博物館では、昨年に引き続いて、「2004一宮市現代作家美術秀選展」を開催いたします。これは、一宮美術作家協会(日本画・洋画・彫塑・工芸・デザイン各部門)、一宮書道協会、一宮写真協会の各協会それぞれ推薦の選りすぐり作品を展示するものです。

この美術秀選展も回を重ねる毎に益々充実していくことにより、一層の市民による美術振興に貢献出来ればと考えますので、ご理解・ご支援の程を宜しくお願いいたします。

3月6日(日)から3月20日(日)

作品展　手つむぎ・染め・織り展

繊維講座(下記参照)の生徒と卒業生(伝承会員)による、16回目の作品発表会。手つむぎ・染色・機織りなど多くの工程を経て製作された木綿の作品を展示します。

手つむぎ・染め・織り展(15年度)

講　座　の　ご　案　内

繊維講座　4月～2月　3月に作品展

一宮地方は、江戸後期から明治前期にかけて、結城縞や桟留縞など縞木綿の生産で有名でした。本講座は、この縞木綿の歴史をたどるとともに、その当時の技術の保存及び伝承を目的としています。通年計20回の講座。年度末の「手つむぎ・染め・織り展」では、1年の成果を作品として発表します。

古文書講座　5月～2月

本講座は、当館で保管している主に市内の近世文書をテキストとして使用し、古文書の読解力を養うと共に、江戸時代の民衆の生活の様子を探り、地域社会のあり方を明らかにする目的で開催しています。平成4年度からはじまり、来年度が13回目となります。5月から2月までほぼ毎月1回、合計10回の講座を開き、受講は3年で修了としています。4月1日の市広報紙上で新受講生を募集します。

博物館講座

子どものための尾張歴史講座 ～体験！考古学～

平成16年8月1日、8日、15日、22日、29日

夏休み中の日曜日に、「骨角器をつくる」「木製品をつくる」など、弥生時代～古墳時代の人々の暮らしに焦点をあて、体験を中心に歴史を学ぶ講座。

博物館講座

尾張平野を語る9 ～木曽川とその歴史的環境～

平成16年9月5日、12日、19日、26日、10月3日

平成15年度に引き続き「木曽川」をテーマとする連続講演会。木曽川をめぐる歴史的環境を紹介・考察する。

一宮市博物館だより

第34号

発行日 ……平成16年3月31日
編集・発行 ……一宮市博物館
制作 ……ヨツハシ株式会社

利用案内

名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車徒歩7分
〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390
TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216

【観覧料】(常設展・聴講料含む・特別展の場合は別途定める。)
一　般＝200円(160円)　高・大生＝100円(80円)
小 中 生＝ 50円(40円)　*(　)は20人以上の団体料金
【休館日】毎週月曜日、休日の翌日、年末年始(12月28日～1月4日)
【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
※一宮市内の小・中学生は無料。
※土曜日は小・中学生無料。(長期学校休業日および休日はのぞく)
※一宮市発行の「シルバー優待証明カード」持参の方は無料。
【HP】http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/division/museum/index.html